

TTP Series バーコードプリンタ

取扱説明書

TTP-243(E) シリーズ*
TTP-243 シリーズ*
TTP-342 シリーズ*



改訂記録	
改訂番号	改訂日
Rev.1.0	Feb. 2002（初版）
Rev.1.1	Sep. 2002 A.1 頁 シリアルポート仕様を追加
Rev.1.2	Feb. 2004 LV7.03 に対応
Rev.1.3	Mar. 2004 4.17 頁 2 次元シボ ルに関する記載を修正
Rev.1.4	Jun. 2004 4.8 頁 パッチに関する記載を追加 4.12 頁 Download...に関する記載を修正 4.17 頁 2 次元シボ ルに関する記載を修正 4.17 頁 環境設定に関する記載を修正
Rev.1.5	2007/06/18 A.2 頁 高さ追加 A.3 頁 確認印付修理依頼者に修正

1. 本書の内容に関しては、将来予告無しに変更することがあります。

2. 本取扱説明書の全部又は一部を無断で複製することはできません。

3. 本書内に記載されている製品名等の固有名詞は各社の商標又は登録商標です。

4. 本書内において、万一誤り、記載漏れなどお気付きのことがありましたらご連絡ください。

5. 運用した結果の影響について、責任を一切負いかねます。

製品保証と注意事項

「保証期間」

本製品の保証期間は、ご購入日より 1 ヶ年とさせていただきます。

「保証範囲」

保証期間中に納入者側の責により故障を生じた場合は、納入者側において機器の修理または交換を行います。

但し、保証期間内であっても、次に該当する場合は、保証対象から除外させていただきます。

1. 需要者側の不適当な取り扱いならびに使用
2. 故障の原因が納入者以外の事由に場合
3. 外装部品の損傷
4. 需要者側で改造・修理を行った場合
5. 天災地変による場合

尚、ここでの保証は納入品単体の保障を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。

「修理」

修理は全てセルフサービス方式で行います。現地での出張修理などは一切行いません。

「電波障害自主規制について」

本装置は米国通信規制「FCC 第 15 条補足 J」による計算機器制約条件に適合しております。商業環境での使用において妥当な保護措置がなされています。しかし、住宅地域でのご使用は妨害（ラジオ・テレビなどの受信障害）が起ることがあります。

「その他」

納入品の価格にはサービス費用は一切含んでおりません。

Blank page

お取扱上のご注意



- 本製品を使用する前に必ず、取扱説明書をお読みください。
- 本製品の分解や改造はしないでください。
- 本製品の取り付け／取り外しをするときは、本製品及びパワリソ・周辺機器の電源スイッチを切り、電源プラグを AC コンセントから抜いて下さい。
- 本製品を接続する機器（パワリソなど）は、必ずアース接地してください。



- 電源ケーブルが AC コンセントに接続されているときには、濡れた手で本製品に触らないでください。
- 静電気による破損を防ぐため、本製品に触れる前に、身近な金属（ドアノブ や机の脚など）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。
- 次の場所への保管・設置は避けてください。
 - ◆ 静電気が発生するところ
 - ◆ 振動が発生するところ
 - ◆ 温度・湿度が仕様環境を超えるところ
 - ◆ 直射日光が当たるところ
 - ◆ 火気の周辺、または熱気のこもるところ
 - ◆ 漏電の危険があるところ
 - ◆ 漏水の危険があるところ
- 規格外品質のパワーコード は読取不良や誤読の原因となりますので、ご注意ください。
- シナヤやパワリソで本装置を拭かないでください。

Blank page

目次

1.	はじめに	1.1
1.1	ご使用上の注意	1.1
1.2	EMC 規格	1.1
1.3	保証に関して	1.2
1.4	梱包内容の確認	1.2
1.5	各部名称	1.3
1.6	ボタとインディケータ	1.6
2.	プリンタを準備する	2.1
2.1	プリンタを配線する	2.1
2.2	ラベルの取付	2.1
2.3	セルフクリーニング機能（自動剥離機能）	2.4
2.4	リボンの取付	2.6
2.5	外付ラベル供給装置の取付	2.8
2.6	フロントカードリッジの取付	2.9
2.7	セルフテスト	2.10
2.8	ダンプモード	2.11
3.	TTPシリーズを使う	3.1
3.1	パワーオンユーティリティ	3.1
3.1.1	セルフテストユーティリティ	3.1
3.1.2	ギャップセンサー調整ユーティリティ	3.1
3.1.3	プリンタ初期化ユーティリティ	3.2
3.2	エラーメッセージ	3.3
3.3	トラブルシューティング	3.4
4.	ラベル印刷してみよう！	4.1
4.1	WINDOWSプリンタドライバ	4.1
4.1.1	プリンタドライバをインストールする	4.1
4.1.2	プリンタドライバを設定する	4.3
4.1.3	サンプリングアプリケーション	4.5
4.2	ラベルデザイナー LabelView	4.6
4.2.1	LabelViewをインストールする	4.6
4.2.2	初期設定	4.9
4.2.3	メニューの説明	4.11
4.2.4	ラベルを作ってみよう	4.24
	【パソコンでラベルを印刷】	4.24
	【スタンドアロンでラベルを印刷】	4.27
補足 A	仕様	A.1
補足 B	オプション	A.2
補足 C	消耗品	A.2
	C.1 ラベルロール	A.2
	C.2 リボン	A.2
	修理依頼書	A.3

Blank page

1. はじめに

この度は、弊社 TTP-243/342 シリーズのバーコードプリンタ(以下、TTP シリーズ)をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

下記に TTP シリーズの特徴を列挙します。

- ロコストでありながら、感熱式印字と熱転写式印字の両方に対応。
- 連続紙、ラベル、タグなど幅広いメディアに対応。
- 5 種類の英数字フォント、各種バーコードフォントを内蔵。4 方向の回転や拡大印字にも対応します。また、日本語フォント対応もあります。
- WINDOWS 版ラベルデザインソフト LabelView を標準添付。ビジュアルにラベルデザインができるだけでなく、TTP シリーズをスタンドアロン環境で運用する際のラベルフォーム登録も簡単に行えます。
- BASIC 的なプログラミング言語 TSPL をサポート。算術演算、ループ処理、条件分岐など、ユーザー独自のスキルでかつ効果的なプリンタ制御プログラムを作成することが可能です。

この説明書は、本装置の基本的な使用方法について説明しております。ご使用になれる前に必ずお読みください。

1.1 ご使用上の注意

本装置は精密な電子部品で構成されていますので、絶対に分解しないでください。本装置が万一故障した場合は、弊社又はお買い上げの販売店までご連絡ください。

1.2 EMC 規格

TTP シリーズは、以下の規格に準拠しています。

CE, FCC, UL, CUL, TÜV-GS, CNS

1.3 保証に関して

弊社では、製品出荷日より一定期間の保証期間を設けています。
各部品の保証期間は下記の通りです。

- プリンタ本体 製品出荷日より 6 ヶ月
(但し、下記のパーツは除く)
- サーマルプリンタヘッド 製品出荷日より 3 ヶ月又は 30Km 印字
(何れか早いほう)
- ロータリカッター 製品出荷日より 3 ヶ月

尚、消耗品等に関しては保証対象外となります。また、お客様の
の不当な取り扱いや天災地変による場合などは、保証対象から除外させていた
だきます。詳しくは、本書巻頭の「製品保証と注意事項」をお読みください。

1.4 梱包内容の確認

本装置の梱包内容は、下記のようになっています。ご確認の上、万一不足、破
損品がありましたら、お買い上げの販売店までご連絡ください。

(梱包内容)

- ◆ TTP シリーズ 本体 ----- 1 台
- ◆ サンプル用ロール ----- 1 本 (*)
- ◆ サンプル用リボン ----- 1 本 (*)
- ◆ リボン巻取りベース ----- 1 本
- ◆ リボン供給スロットル & 巻取りスロットル ----- 1 対
- ◆ ラベル供給スロットル ----- 1 本
- ◆ 外付ラベル供給シグナルスロットル ----- 1 対 (*)
- ◆ AC アダプタ ----- 1 個
- ◆ AC 電源コード ----- 1 本
- ◆ セントロキスインターフェイス用プリンタケーブル ----- 1 本 (*)
- ◆ CD ディスク (ラベルデザインソフト & WINDOWS ドライバ) ----- 1 枚
- ◆ 取扱説明書 (本書) ----- 1 冊

(*) TTP-234E には付属しません。

その他、オプションをご注文された場合は、下記の製品が同梱又は別梱包にて発送
されます。

- ◆ ラベルロール
- ◆ リボン
- ◆ フォントカートリッジ
- ◆ ロータリカッター (TTP-243E はオプション設定無し)
- ◆ スタンドアロン稼動対応キーボード (KP-200)

梱包箱は、修理などで製品を返送する場合、輸送時の損傷を避けるために必要
となります。大切に保管してください。

1.5 各部名称

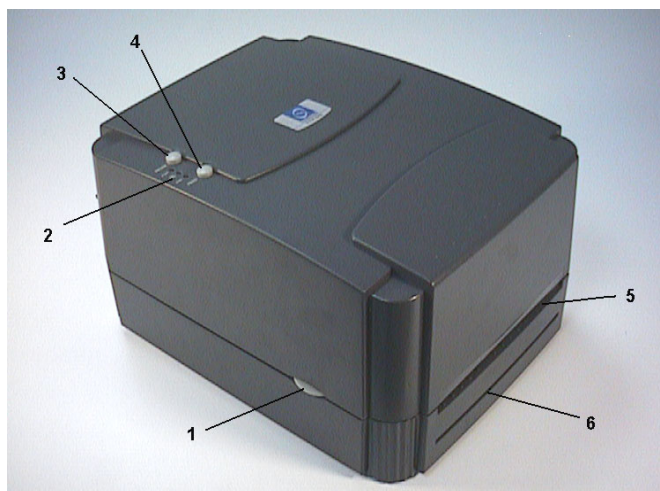


図 1 概観

1. カバーリリースボタン
2. 電源(PWR.), オンライン(ON-LINE), エラー(ERR.) LED インディケータ
3. ホーズ (PAUSE)ボタン
4. フィード (FEED)ボタン
5. ラベル排紙口
6. ラベル台紙排紙口

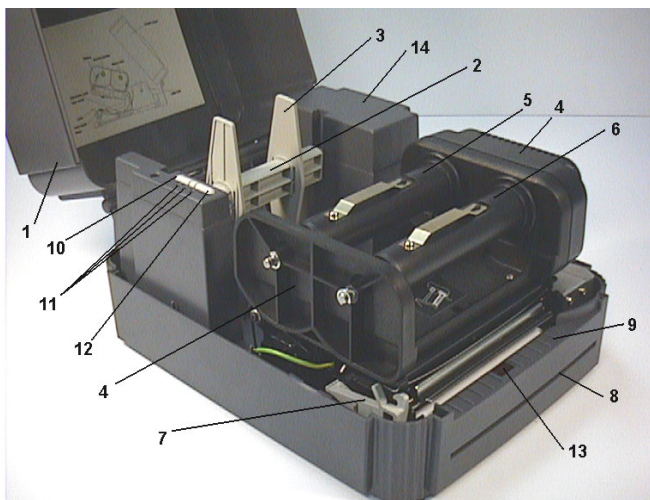


図2 プリンタ内部

1. プリンタカバー(カバーを開けた状態)
2. ラベル供給スロッド
3. ラベル固定ガイド
4. プリンタキャリッジ(リボンメカニズム)
5. リボン供給スロッド
6. リボン巻取スロッド
7. プリンタキャリッジ・リリースバー
8. ラベル台紙排紙口
9. 脱着式フロントパネル
10. ホーズ (PAUSE)ボタン
11. 電源(PWR.), オンライン(ON-LINE), エラー(ERR.) LED インディケータ
12. フィード (FEED)ボタン
13. ヒートセンサー
14. フロントカートリッジスロット(カバーを閉じた状態)

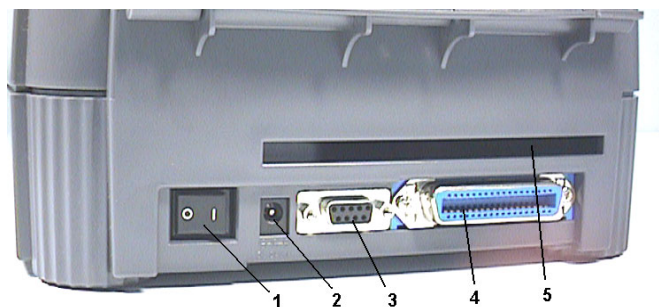


図 3 コネクタ部

1. 電源スイッチ
2. 電源コネクタ
3. RS232C インターフェイスコネクタ(DB9 メスコネクタ)
4. セントロニクスインターフェイスコネクタ
5. パレル挿入口(外付パレル供給シグ使用時)

下記に外付パレル供給シグの概観を示します。



図 4 外付パレル供給シグ

1.6 ボタンとインディケータ

TTP シーズは幾つかのボタンとホールドに動作状態を知らせるための LED インディケータを装備しています。

ボタンと LED の意味については、下記を参照下さい。

PWR.(電源) LED インディケータ

電源が投入されると、この LED が緑色に点灯します。

ON-LINE(オンライン) LED インディケータ

プリントが印刷可能状態になると、この LED が緑色に点灯します。

また、ポーズボタンが押されると、緑色に点滅しポーズ状態であることをホールドに知らせます。

ERR.(エラー) LED インディケータ

プリントでメモリエラーやシタックスエラーなどが発生すると、この LED が赤色に点灯します。

PAUSE(ポーズ) ボタン

ポーズボタンを押すことでホールドは印刷処理を中断することができます。ポーズ状態で再度、ポーズボタンを押すと印刷処理を再開します。

(1)最初にポーズボタンを押すと、プリントは印字途中のラベルを印刷した後、印刷処理を中断します。(2)印刷処理中断中は、プリントは全データをメモリしたままオンライン LED が点滅させます。この間にホールドは、ラベルロールやリボンの交換を行うことができます。(3)再度ポーズボタンを押すと、プリント印刷処理は再開します。



注意

ポーズボタンを 3 秒間以上押し続けると、プリントは強制的にリセットされ、先の印刷ジョブでメモリしていたデータは全て消失します。

FEED(フィード) ボタン

フィードボタンを押すと、紙を 1 ラベル分フィードすることができます。

2. プリンタを準備する

2.1 プリンタを配線する

1. 平らな場所にプリンタを設置します。
2. 電源スイッチが切になっていることを確認します。
3. 付属のセントロックスインターフェイスケーブル又は RS232C インターフェイスケーブル(オプション)を使って、PC とプリンタを接続します。
4. DC ジャックをプリンタ背面の DC 接続に差込み、AC コード を AC アダプタ外にしっかり差し込んだ後、AC コード をアースが確立されたコンセントに差し込みます。

2.2 ケーブルの取付

1. プリンタカバーを開けます。
2. プリンタキャリッジ・リリースバーを手前に引き、プリンタキャリッジを開けます。
3. ケーブルをケーブル供給スロットに差込み、ケーブル固定ガイドを取付ます。
4. スロットガイドにケーブルを取付、ケーブルをプリンタキャリッジの下を通して、プリンタが隠れるところまで、引き出します。
5. ペーパーガイドをケーブル幅に合わせます。
6. プリンタキャリッジを閉じます。両サイドのロックがしっかりとかかるようにしてください。
7. プリンタカバーを閉じ、オンライン LED が緑色に点灯するまで、フィードボタンを 3~4 回押します。
8. リボンやケーブルが無い場合は、オンライン LED は点灯せず、エラー LED が赤色に点滅します。この場合は、プリンタの電源を落とさずに、リボン又はケーブルの交換を行い、先と同様にオンライン LED が緑色に点灯するまで、フィードボタンを 3~4 回押します。これにより、印刷途中でもデータを失うことなく、そのまま印刷処理を再開することが可能になります。

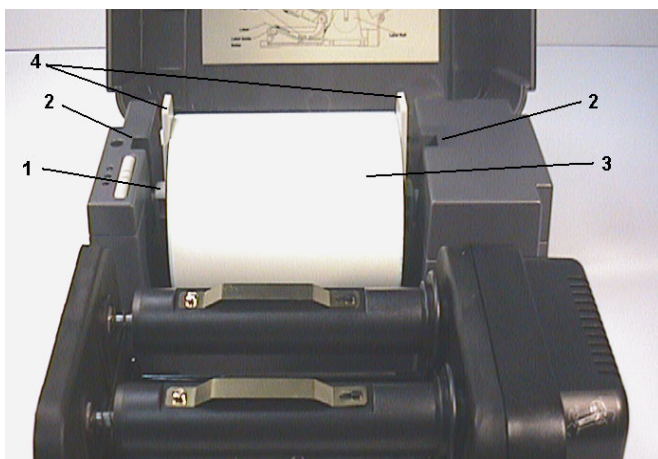


図 5 ラベルをスタンドに取付

1. ラベル供給スタンド
2. スタンド
3. ラベルロール
4. ラベル固定

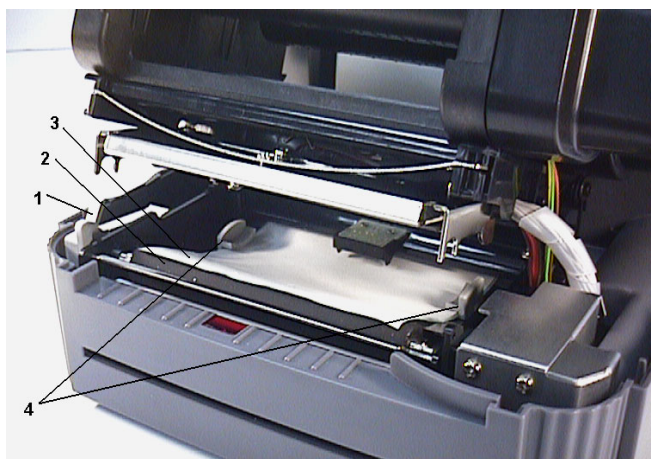


図 6 ペーパーガイドをラベル幅に調整

1. プリントキャリッジ・リリースレバー
2. プリントヘッド
3. ラベル
4. ペーパーガイド

2.3 セルフ・リング 機能（自動剥離機能）

セルフ・リング 機能を使う場合は、下記の手順に従ってください。

1. フォント® 札を取り外します。
2. ラベル 3~4 枚（ラベルサイズによって適度な枚数）をはがし、図 7 に示すように、ラベル台紙をプラテンとセルフ・リング・ローラーの間に通します。
3. ラベル台紙を図 8 に示すように、フォント® 札のラベル台紙排紙口から引き出します。
4. フォント® 札を元の位置にセットすれば、準備完了です。

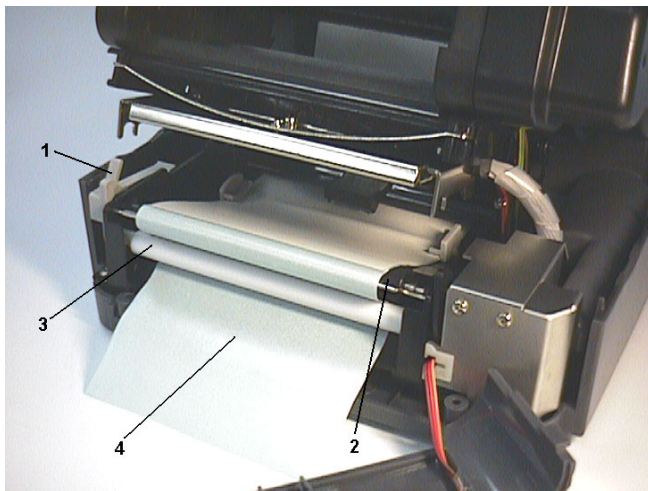


図 7 セルフ・リング 機能用にラベルを取付

1. プリントキャリッジ・リリースバー
2. プラテン
3. セルフ・リング ロール
4. ラベル台紙

⚠ 注意

1. セルフ・リング 機能を使う場合は、印刷速度を 2 インチ/秒 (TTP-342 は 1.5 インチ/秒) でご使用ください。
2. ペーパージャムや故障の原因となりますので、フォント®, ドライバー®, ラベルデザインソフトで必ずセルフ・リング 機能を必ず有効にしてご使用ください。

フォント® 例) SET PEEL ON

3. TTP-243E ではセルフ・リング 機能はご使用になれません。

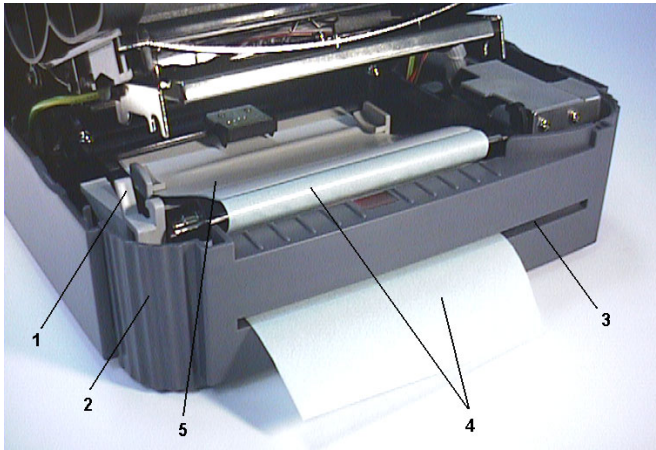


図 8 ラベル台紙排紙

1. フリタキリッ・リリース
2. フロント
3. ラベル台紙排紙口
4. ラベル
5. ラベル

注意

1. 剥離機能を使う場合は、印刷速度を 2 インチ/秒 (TTP-342 は 1.5 インチ/秒) でご使用ください。
2. ページャムや故障の原因となりますので、コマンド、ドライバー、ラベルデザインソフトで必ず剥離機能を必ずおにしてお使用ください。

コマンド 例) SET PEEL ON

3. TTP-243E では剥離機能はご使用になれません。

2.4 リボンの取付

1. リボン巻取スンドルに空のペーパコアを取付ます。
2. リボン供給スンドルに新しいリボンを取付ます。
3. シールのついたリボンの先端フィルム部分をラベルロール側に引き出し、プリンタキャリッジの下を通して、リボン巻取用のペーパコアに貼り付けます。
4. リボン巻取ローターを回転させて、リボンの黒色部分でしっかりと巻取部が固定されるようにします。
5. プリントキャリッジを閉じます。両サイドのロックがしっかりとかかるようにしてください。
6. プリントカバーを閉じ、オンライン LED が緑色に点灯するまで、フィードボタンを押します。



図 9 リボンの取付

1. プリントキャリッジ・リリースバー
2. リボン供給スンドル
3. リボン巻取スンドル
4. リボン

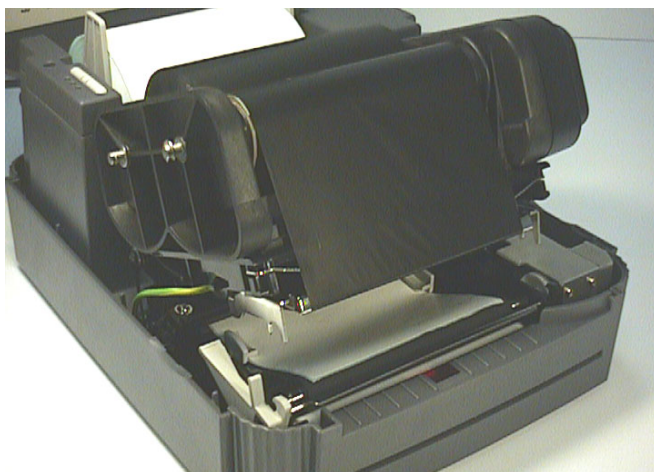


図 10 リールとリボンの取付

2.5 外付テープ供給ジグの取付

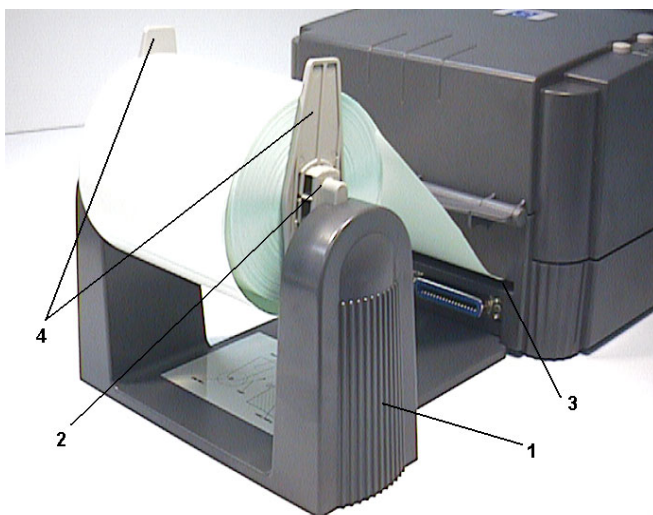


図 11 外付テープ供給ジグを使ったテープの取付

1. 外付テープ供給ジグ
2. テープ供給ホルダー
3. 外付テープ挿入口
4. テープ固定ガイド

2.6 フォントカード・リッジの取付

1. プリンタの電源をオにし、プリンタカバーを開けます。
2. カートリッジカバーを取り外します。
3. フォントカートリッジを差し込みます。向きを間違わないように注意して差し込んでください。
4. カートリッジカバーを元に戻して、プリンタの電源をオにします。

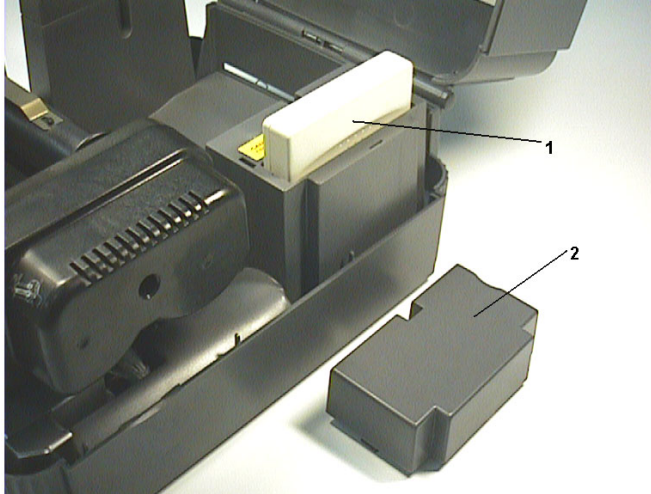


図 12 フォントカートリッジ (オプション)の取付

1. フォントカートリッジ
2. カートリッジカバー

2.7 ユニテスト

フィードボタンを押しながらプリンタの電源をオンのすると、ユニテストが実行されます。プリンタはペーパー長の検出を行い、7インチ(約18cm)以内にギャップが検出できない場合、セットされているメディアが連続紙であると判断します。

ユニテストでは、下記の項目がチェックされ、結果がメディアに印字されます。

1. プリンタ型式とファームウェアバージョン
2. マイルージ (Eシリーズは無し)
3. フラッシュ回数(Eシリーズは無し)
4. チェックサム
5. シリアルポート設定値
6. コードページ設定値
7. カントリーコード設定値
8. 印刷速度設定値
9. 印刷濃度設定値
10. ペーパーサイズ設定値
11. ギャップ(ブラックライン)幅とオフセット設定値
12. ペーパー台紙の透過値
13. ファイルリスト
14. メモリ容量

ユニテストが終了すると、プリンタはスタンバイモードに入ります。通常の動作モードに戻したい場合は、一度プリンタの電源をオフにしてから、再度電源をオンにします。

PRINTER INFO

```
TTP243 VER 1.0B34
MILAGE(Km):0
FLASH TIMES:24
CHECK SUM:C8CD
SERIAL PORT:96,N,8,1
CODE PAGE:437
COUNTRY CODE:001
SPEED:2 INCH
DENSITY:09
SIZE:4,02,4,10
GAP(BLINE):0.00,0.00
TRANSPARENCE:05,05,05
```

FILE LIST:

```
TOTAL MEMORY: 1920K BYTE
AVAIL MEMORY: 1887K BYTE
END OF FILE LIST
```

2.8 ダンプモード

プリンタはコマンドが終了すると、ダンプモードに入ります。このモードでは、ホストからプリンタに送られたデータを全て下記に示すように ASCII/HEX にて印字します。ダンプモードはホストから送信されるプリンタコマンドの検証やプリンタプログラムのデバッグなどに利用できます。

通常の動作モードに戻したい場合は、一度プリンタの電源を切にしてから、再度電源を切にします。

NOW IN DUMP MODE

```

DOWNLOAD "DE 44 4F 57 4E 4C 4F 41 44 20 22 44 45
MO2.BAS" SI 4D 4F 32 2E 42 41 53 22 0D 0A 53 49
ZE 4.00,5.00 5A 45 20 34 2E 30 30 2C 35 2E 30 30
CLS SPEED 0D 0A 43 4C 53 0D 0A 53 50 45 45 44
1.5 DENSIT 20 31 2E 35 0D 0A 44 45 4E 53 49 54
Y 10 DIRECT 59 20 31 30 0D 0A 44 49 52 45 43 54
ION 0 SET C 49 4F 4E 20 30 0D 0A 53 45 54 20 43
UTTER OFF S 55 54 54 45 52 20 4F 46 46 0D 0A 53
ET DEBUG LAB 45 54 20 44 45 42 55 47 20 4C 41 42
EL REFERENC 45 4C 0D 0A 52 45 46 45 52 45 4E 43
E 0.0 A=100 45 20 30 2C 30 0D 0A 41 3D 31 30 30
0 Y=100 FO 30 0D 0A 59 3D 31 30 30 0D 0A 46 4F
R I=1 TO 3 52 20 49 3D 31 20 54 4F 20 33 0D 0A
BARCODE 100, 42 41 52 43 4F 44 45 20 31 30 30 2C
Y,"39",96,1, 59 2C 22 33 39 22 2C 39 36 2C 31 2C
0,2,4,STR$(A 30 2C 32 2C 34 2C 53 54 52 24 28 41
) A=A+1 Y= 29 0D 0A 41 3D 41 2B 31 0D 0A 59 3D
Y+150 NEXT 59 2B 31 35 30 0D 0A 4E 45 58 54 0D
PRINT 1 EO 0A 50 52 49 4E 54 20 31 0D 0A 45 4F
P DEMO2 50 0D 0A 44 45 4D 4F 32 0D 0A

```

Blank page

3. TTP シーズを使う

3.1 パワーオンユティリティ

TTP シーズにはハードウェアテスト及び設定を行うための 3 種類のパワーオンユティリティが用意されています。パワーオンユティリティは、フィードボタン又はポーズボタンを押しながら、電源をわにすることで実行できます。

3.1.1 エルフトユティリティ

ラベルが正しく取り付けられている状態で、フィードボタンを押しながらプリンタの電源をわにします。プリンタがラベルフィードを開始するまでフィードボタンを押し続けます。エルフトユティリティでは、以下の項目が実行されます。

1. ラベルピッチの調整
2. プリントヘッドチェックバタンの印刷
3. 内部設定値の印刷
4. ダンクモード

詳しくは、「2.7 エルフト」及び「2.8 ダンクモード」を参照ください。

3.1.2 キヤップセンサー調整ユティリティ

このユティリティはキヤップセンサーの感度調整に使用します。キヤップセンサーの調整は、主に以下の条件に当てはまる時に必要となります。

1. メディアタイプ(ラベルリボン)が変更された場合
2. プリンタを初期化した場合



注意

キヤップセンサー調整が正しく行われていない場合、エラー LED が赤色に点滅します。

下記の手順に従って、キヤップセンサー調整を行ってください。

1. プリンタの電源をわにし、何も印字されていないラベル(□や文字が印刷されていないラベル)を取付ます。
2. ポーズボタンを押しながら、プリンタの電源をわにします。
3. プリンタがラベルフィードを開始することを確認してから、ポーズボタンを離します。プリンタが動作を停止し、電源 LED とエラー LED の 2 つが緑色に点灯する迄、電源をわにしないけません。

3.1.3 プリンタ初期化ユーティリティ

プリンタの初期化を行うと、ダウンロードされているファイルは全て消去され、全てのパラメータ設定は、下記に示すデフォルト値にリセットされます。

パラメータ	デフォルト値
マイレージ ^(*)	自動
フラッシュ回数 ^(*)	自動
チェックサム	自動
シリアルポート	9600、N,8,1
コードページ	437(8ビット), USA(7ビット)
カトリコード	001
印字速度	2 インチ/秒
濃度	09
サイズ	4 インチ, 2.5 インチ
ギャップ (フックライン)	0.12 インチ, 0 インチ
透過値	05, 05, 05

^(*) E シリーズはサポートしていません。

下記の手順に従って、プリンタの初期化を行ってください。

1. プリンタの電源を切にします。
2. ホースボタンとフィードボタンを押しながら、プリンタの電源を切にします。
3. 3 つの LED が点滅を開始することを確認してから、ボタンを離します。

注意

1. 感熱式 / 熱転写式の切り替えは、電源切時にプリンタが自動的に行います。
2. プリンタの初期化を行った場合は、再度ギャップセンサー調整を行ってください。

3.2 エラーメッセージ

TTP シリーズはエラーが発生すると以下のエラーメッセージを出力します。

Syntax Error

- マシンの書式に誤りがあります。
- シリアルポートの設定に誤りがあります。

Out of Range

- 数字入力値が処理範囲を超えています。
- 文字列長が処理範囲を超えています。
- 文字列サイズ 又は バイナリコード サイズ が バッファ サイズ を超えています。

Download Error

- ダウンロードフォーマットに誤りがあります。
- ファイルを保存する十分なメモリがありません。

Stack Overflow

- 算術演算式が複雑過ぎます。単純化するため、式を複数に分割してください。
- ルーチンのネスト構造が深すぎます。

Memory Error

- 定義されている変数が多すぎます。

RS-232 Error

- シリアルポートの設定に誤りがあります。

File not Found

- 指定のファイルをオープンできません。

Type Mismatch

- 変数タイプが合っていません。

Gap not Found

- バッファギャップが検出できません。ギャップセンサー調整を行ってください。

Clock Access Error

- リアルタイムクロックへ読み書きできません。



注意

エラーメッセージ出力を行う場合は、SET DEBUG マシンで設定を行う必要があります。詳しくは、CD-ROM の TSPL フォルダにある「TSPL プログラミングマニュアル」を参照ください。

SET DEBUG OFF

SET DEBUG LABEL

SET DEBUG RS232

エラーメッセージ出力を初にします。

エラーメッセージをラベルに印字します。

エラーメッセージをシリアルポートから出力します。

3.3 トラブルシューティング

TTP シリーズを運用する上で直面しやすい問題とその解決方法を示します。
もし、問題が解決しない場合は、お近くの販売店又は弊社までご連絡をお願いします。

リボンを巻き取らない

- 印刷方式の設定を確認してください。
(SET RIBBON ON コマンド)

印刷品質が悪い

- プリンタの印字濃度を調整してみてください。
- ラベル材質とリボン種の相性は悪くないですか？
- プリンタヘッドのクリーニングを行ってください。
- プリンタヘッドは消耗品です。交換時期ではありませんか？

電源 LED が点灯しない

- 電源コードが正しく接続されているか確認してください。

オンライン LED が点灯していない

- ラベルやリボンが無くなっていないか確認してください。
- キヤッチセンサーが正しく調整されていない可能性があります。
キヤッチセンサーの再調整を行ってください。

エラー LED が点灯している

- コマンドの書式に誤りがないか確認してください。
- リボン巻取用のペーパークォリティがセットされていない可能性があります。
- シリアルポートのポート設定に誤りがないか確認してください。

4. ラベル印刷してみよう！

TTP シリーズ は下記に示すラベル印刷方法に対応しています。

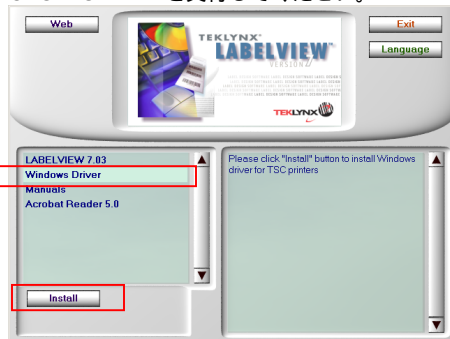
- **WINDOWS プリントドライバを経由して印刷する**
本書「4.1 WINDOWS プリントドライバ」を参照ください。
- **ラベルデザイナー LabelView (ラベルビュー)を使って印刷する**
本書「4.2 ラベルデザイナー LabelView」を参照ください。
- **専用プリント言語 TSPL を使って印刷する**
CD-ROM の TSPL フォルダにある「TSPL プリンタリングマニュアル」を参照ください。

4.1 WINDOWS プリントドライバ

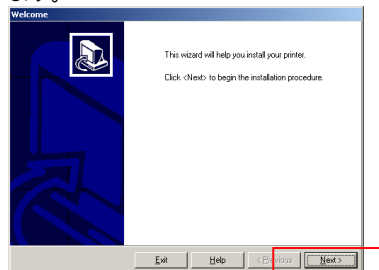
4.1.1 プリントドライバをインストールする

下記の手順に従って、目的のプリントドライバをインストールしてください。

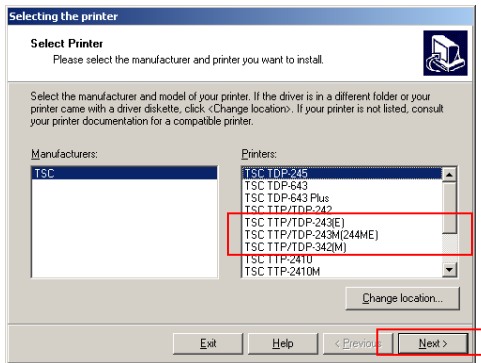
1. LabelView CD をドライブに挿入すると、下記のインストールメニューが表示されます。CD が自動再生されない場合は、CD 中の CDSETUP.EXE を実行してください。



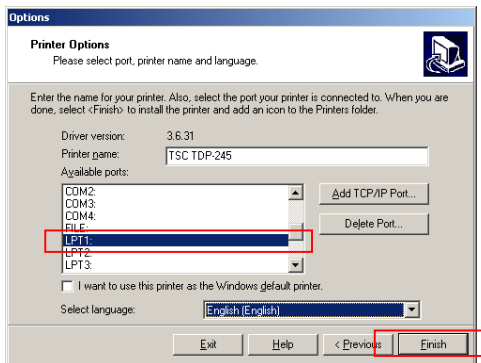
2. 「Windows Driver」を選択し、「Install」ボタンをクリックすると、プリントドライバのセットアップが始まります。「Next>」ボタンをクリックして次へ進みます。



3. リストから目的のポートを選択し、「Next>」ボタンをクリックします。



4. 最後にポートが接続されているポートを選択し、「Finish」ボタンをクリックします。



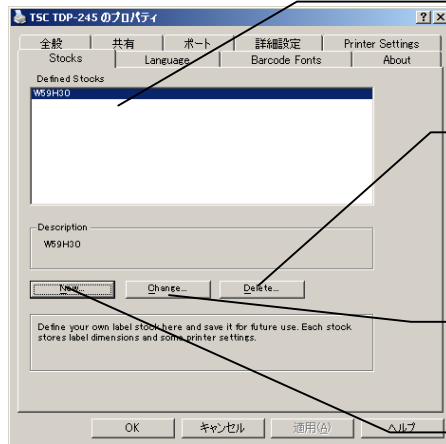
5. プリンタードライバのインストールが始まり、インストールが完了すると最初のインストールメニューに戻ります。インストール完了後、コンピュータの再起動を促すメッセージが表示された場合は、それに従いコンピュータを再起動します。

4.1.2 プリンタライバを設定する

プリンタライバのプロパティには幾つかの設定項目があります。本書では良く使用する項目を抜粋して説明します。ここで説明しない項目については、通常、ディフォルトの状態でご使用ください。

ラベルを定義する

ラベルの定義はプリンタプロパティの Stocks タブで行います。

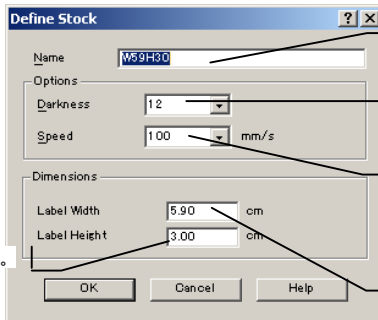


既に定義されているラベルの一覧が表示されます

選択したラベル定義を削除します。

選択したラベル定義を変更します。クリックすると、次頁の Define stock ダイアログに移ります。

ラベル定義を新規作成します。クリックすると、下記の Define stock ダイアログに移ります。



任意のラベル定義名を付けます。

印刷濃度を設定します。値が大きくなるほど濃度は濃くなります。

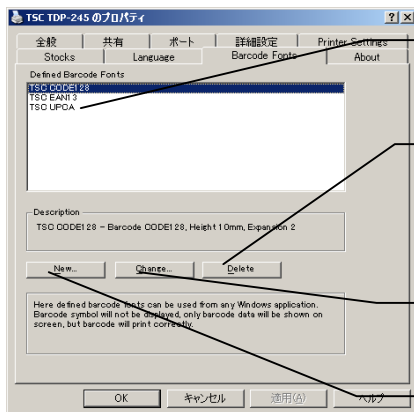
印刷速度を設定します。

ラベルの高さを設定します。

ラベルの幅を設定します。

バーコードフォントを定義する

バーコードフォントの定義はプリンタソフトの Barcode Fonts タブで行います。



既に定義されているバーコードフォントの一覧が表示されます。

選択したバーコードフォント定義を削除します。

選択したバーコードフォント定義を変更します。クリックすると、次の Define Barcode Font ダイアログに移ります。

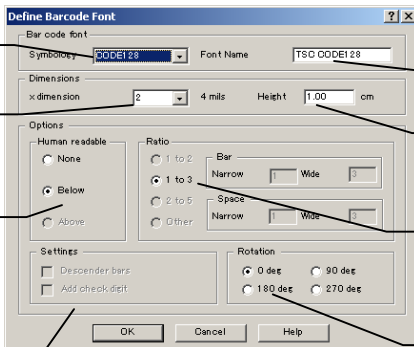
バーコードフォント定義を新規作成します。クリックすると、次の Define Barcode Font ダイアログに移ります。

バーコードの種類を選択します。

バーコードの細い線の基準値を設定します。値が小さいほど、高密度なバーコードになります。

目視文字をバーコードの下に印字する場合は、Below に設定し、印字しない場合は None に設定します。

チェックマークを自動的に付加したい場合に選択します。バーコード種によっては、このオプションが有効になります。



任意のバーコードフォント名を付けます。

バーコードの高さを設定します。

細バーとワイドバーの比率(レオ)を設定します。

バーコードの印字方向(回転)を設定します。

4.2 バックアップソフト LabelView

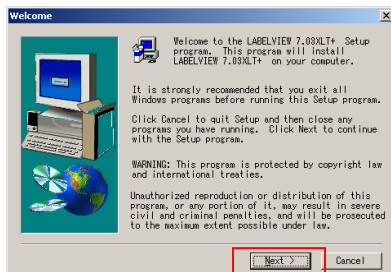
4.2.1 LabelView をインストールする

下記の手順に従って、LabelView をインストールしてください。

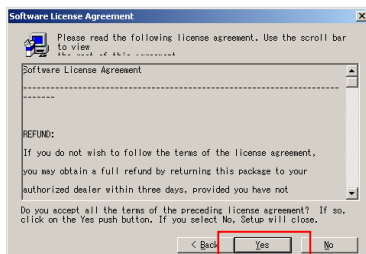
1. LabelView CD をドライブに挿入すると、下記のインストールメニューが表示されます。CD が自動再生されない場合は、CD 中の CDSETUP.EXE を実行してください。



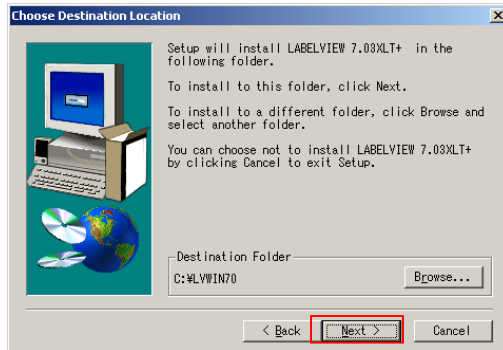
2. 「LABELVIEW x.xx」を選択し、「Install」ボタンをクリックすると、LabelView のセッアップが始まります。「Next>」ボタンをクリックして次へ進みます。



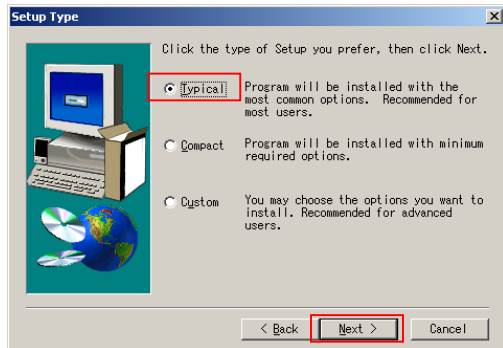
3. ライセンスに関する記述が表示されるので、了承いただける場合は、「Yes」ボタンをクリックして次へ進んでください。



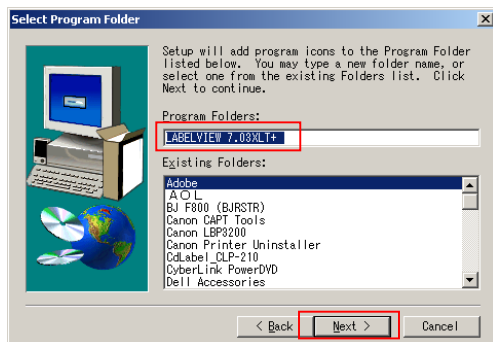
4. LabelView をセットアップするフォルダを変更したい場合は、「Browse」ボタンをクリックして、任意のフォルダを指定します。通常は、そのままお進みください。



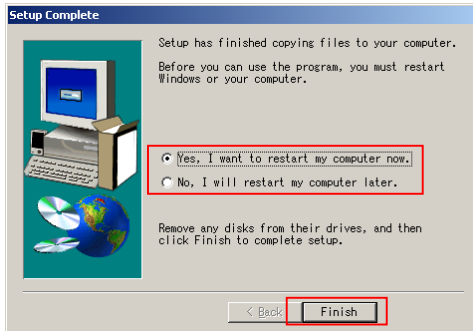
5. 「Typical」、「Compact」、「Custom」の 3 つのオプションが表示されますが、必ず「Typical」を選択し、次に進んでください。



6. 既定のプログラムフォルダ名が表示されます。そのまま又は変更後に「Next>」ボタンをクリックすると、インストールを開始します。



7. インストールが終了すると、コンピュータの再起動を促すダイアログが表示されます。すぐに再起動する場合は「Yes」を、後で再起動したい場合は「No」を選択して、「Finish」ボタンをクリックします。



8. 続いて、「ラベルビューアップデータファイル」と書かれた CD-ROM を CD-ROM ドライブ に挿入し、LV_UP フォルダにある下記の 2 つのファイルで LabelView をセットアップしたフォルダにある古いファイルをアップデートします。

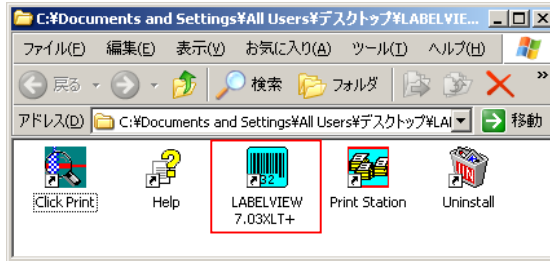
JPNJIS.STR
 SHIFTJIS.STR
 LV.EXE (最新バージョンがある場合のみ)

LabelView をデフォルトフォルダにセットアップした場合は、下記の COPY コマンドをコマンドプロンプトから実行することで、ファイルのアップデートを行うことができます。「D」は CD-ROM ドライブです。

```
> COPY D:\LV_UP\*. * C:\LVWIN70
```

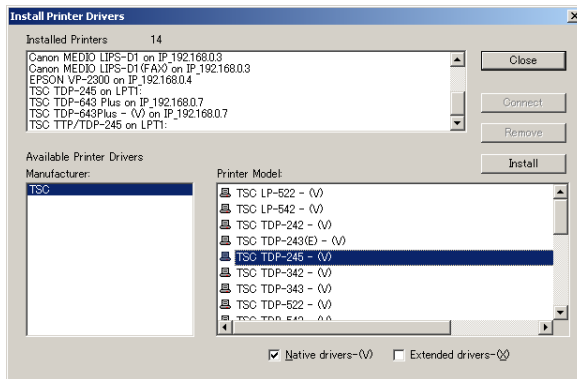
4.2.2 初期設定

セットアップが完了するとスタートメニューとデスクトップに、「LabelView 7.03XLT+」というプログラムのグループフォルダが作成されます。そこから LabelView アイコンをクリックして、ラベルデザインソフト LabelView を起動します。



最初に LabelView を起動すると、プリンタドライバのインストールを促すダイアログが表示されます。ご使用になるプリンタを選択し、「Install」ボタンをクリックすると、目的のプリンタドライバがインストールされます。続けて複数のプリンタドライバをインストールすることも可能です。また、既にインストールされているプリンタを上段リストから選択し、「Connect」ボタンをクリックすると、接続ポートの変更が行えます。

同様に目的のプリンタを選択した後、「Remove」ボタンをクリックすることで、そのプリンタドライバを削除することができます。

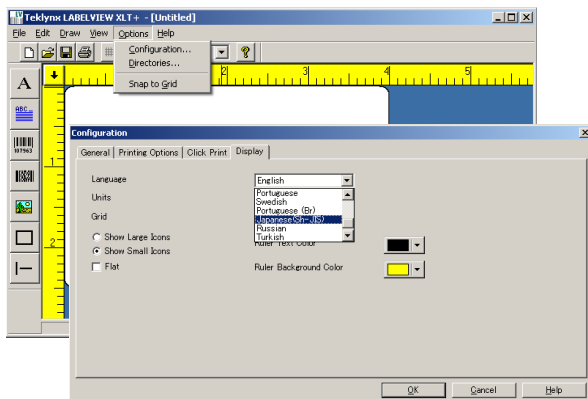


注意

LabelView が使用するプリンタドライバは、通常の WINDOWS プリンタとは異なる LabelView 専用プリンタドライバとなります。ゆえに、この専用プリンタドライバにはプロパティなどはありません。プロパティを閲覧しようとすると、エラーが発生しますので、ご注意ください。弊社バーコードプリンタ用の LabelView 7.03 専用ドライバは全て、「TSC xxxx - (V)」という形式の名前となります。

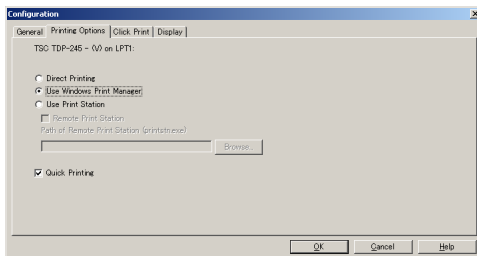
最初、LabelView は英語表示となっています。本書では、日本語表示を前提として説明を行いますので、ここで日本語表示に切替えておきましょう。

メニューから「Options」...「Configuration」を選択し、Configuration ダイアログを開き、「Display」タブをクリックします。

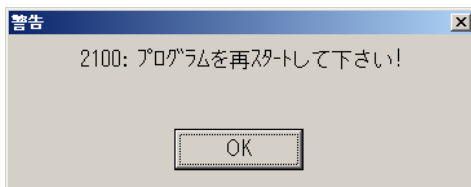


「Language」を Japanese(Sh-JIS)に変更します。Japanese(JIS)に変更すると、うまく日本語表示されませんので気をつけてください。

続いて、「Printing Options」タブをクリックし、「Use Windows Print Manager」を選択します。



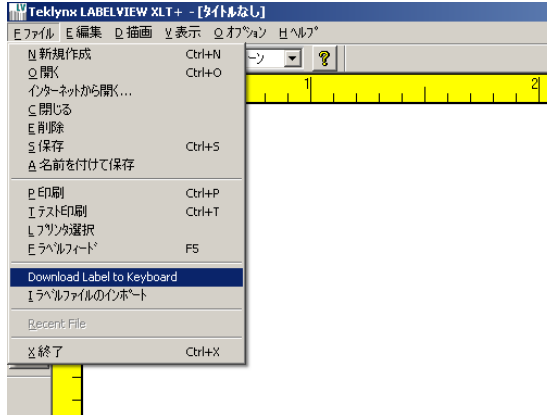
最後に「OK」をクリックすると、プログラムの再起動を促す下記のメッセージが表示されますので、メッセージに従って、プログラムを再起動させてください。



以降、LabelView は日本語表示モードで起動します。

4.2.3 メニューの説明

【ファイル】



【ファイル】...【新規作成】

新しいラベルを作成します。

【ファイル】...【開く】

保存されているラベルファイル(*.LBL)をオープンします。

【ファイル】...【インターネットから開く】

本バージョンでは使用できません。

【ファイル】...【閉じる】

編集中のラベルを閉じます。

【ファイル】...【削除】

ラベルファイルを削除します。

【ファイル】...【保存】

編集中のラベルを上書き保存します。

【ファイル】...【名前を付けて保存】

編集中のラベルを名前を付けて保存します。

【ファイル】...【印刷】

編集中のラベルを印刷又は指定のラベルファイルを印刷します。

【ファイル】...【テスト印刷】

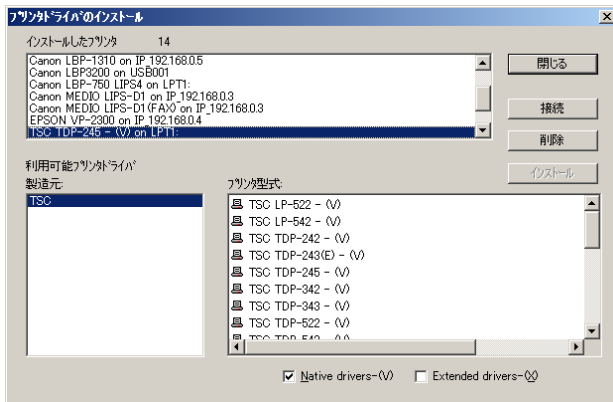
テスト印刷を行います。

【ファイル】...【プリンタ選択】

印刷に使うプリンタを選択します。



「インストール」ボタンをクリックすると、新しいプリンタドライバのインストールも行えます。



【ファイル】...【ラベルフィード】

1 ラベル分フィードします。

【ファイル】...【Download File to Printer】

又は

【ファイル】...【Download Label to Keyboard】

指定のラベルファイルをラベルプログラム(TSPL/TSPL2/TSKL)に変換して、プリンタ又はキーボードメモリにダウンロードします。複数のラベルを1度にダウンロードでき、プリンタのスタートアロン稼動が可能になります。プリンタメモリへダウンロードする場合は、別売の KP-200 キーボード、キーボードメモリへダウンロードする場合は、別売の KU-007PLUS キーボードが必要になります。

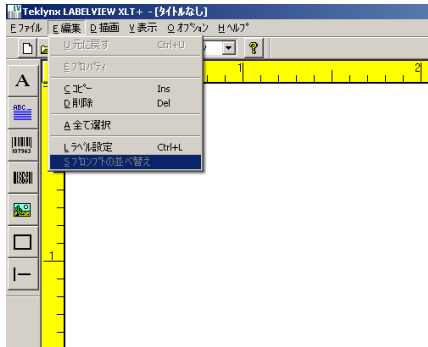
【ファイル】...【ラベルファイルのインポート】

他のラベルデザインソフトで作成されたファイルをインポートします。Code Soft や Label Matrix 等多くのファイル種別に対応していますが、全てのファイルを 100% 再現できる訳ではありませんので、予めご了承ください。

【ファイル】...【終了】

LabelView を終了します。

【編集】



【編集】...【元に戻す】

変更内容を元に戻します。

【編集】...【コピー】

選択されたオブジェクトのコピーを開きます。

【編集】...【コピー】

選択されたオブジェクトをコピーします。

【編集】...【削除】

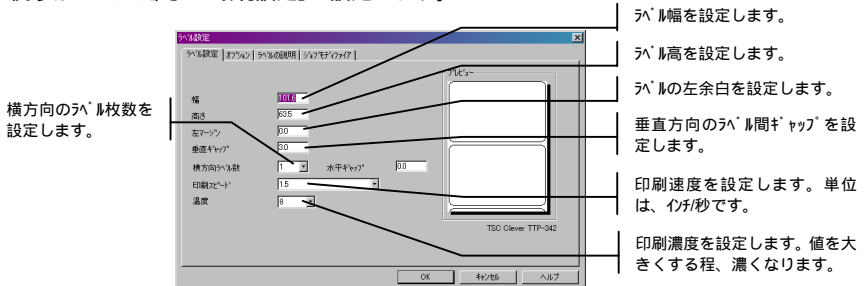
選択されたオブジェクトを削除します。

【編集】...【全て選択】

デザイン上に配置された全てのオブジェクトを選択します。

【編集】...【ラベル設定】

デザインするラベルの基本設定を行います。長さの単位は、インチ又はミリで、何れを使うかは「オプション」...「環境設定」で設定します。



センサタイプを設定します。

オートカッターの設定を行います。

インクリメント方法を設定します。
プリンタ：10進でプリンタがインクリメント
ソフトウェア：10進でソフトがインクリメント
16進：16進でソフトがインクリメント

印刷枚数の指定方法を設定します。

印刷時入力

印刷時に枚数を指定

固定

印刷枚数の固定値を指定

ラベルの説明を入力します。

ラベルを印刷後、どれだけフィードするかを設定します。言い換えると、ここで設定した値分、ラベル印刷時にバックフィードして印刷を行います。

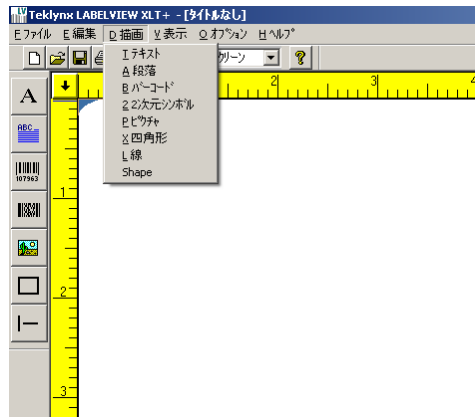
このオプションは無効です。

ジョブモディファイアは通常業務では使用しませんので、ここでは割愛致します。

【編集】...【プロット】の並べ替え

印刷時に入力が必要なオブジェクトの入力順序を設定します。

【描画】



【描画】...【テキスト】

パネルにテキストオブジェクトを追加します。画面左の **A** アイコンも同じ意味を待ちます。このメニューを実行すると、下記のプロパティが開きます。各項目に適切な値を設定し、テキストオブジェクトを任意の位置に配置します。

プリンタフォントの高さ及び幅の倍率を設定します。トルタイプフォントが設定されている場合は、フォントサイズ(ポイント)とスタイルをそれぞれ設定します。

文字の印字方向(回転)を設定します。

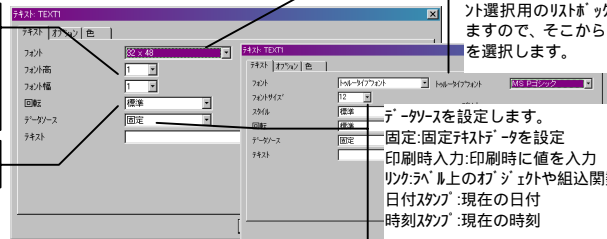
データをインクリメントさせたい場合は、ここに増分値を設定します。

同一増分値で複数のパネルを発行する必要がある場合は、ここに枚数を入力します。

白黒反転印刷を行うかを設定します。

桁合せのゼロを先頭に付加するかを設定します。付加する場合は、桁数を19以内で設定します。

このオブジェクトを非表示にします。



フォントを設定します。トルタイプフォントを選択すると、右横にトルタイプフォント選択用のリストボックスが表示されますので、そこから好みのフォントを選択します。

データソースを設定します。

固定:固定データソースを設定

印刷時入力:印刷時に値を入力

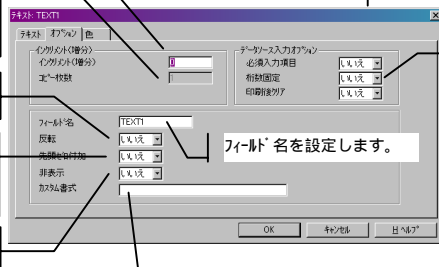
リンク:パネル上のオブジェクトや組込関数とリンク

日付スタンプ:現在の日付

時刻スタンプ:現在の時刻

印刷時入力を設定した場合は、桁数・ゼロ・配置の3項目が新たに追加されます。

日付及び時刻スタンプを設定した場合は、Source・書式の2項目が追加されます。



フィールド名を設定します。

データソースを「印刷時」に設定した場合に、設定が必要となるプロパティです。

必須入力:必須入力項目

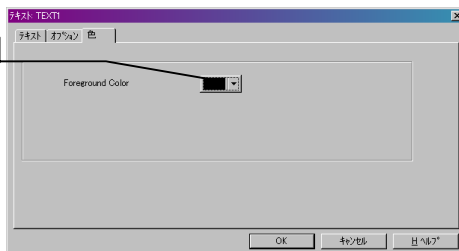
桁数固定:決められた桁数以外は無効

印刷後クリア:印刷後、値をクリア

KP-200/KU-007PLUS キーボードを使用する際は、桁数固定及び印刷後クリアは機能しません。

桁組書式を指定します。例えば、123456 を 12:34<56> と印字したい場合は、***<<*>とします。

文字色を設定します。



再度、プロパティを編集したい場合は、オブジェクトを選択してから「編集」...「プロパティ」を実行するか、オブジェクトをダブルクリックします。

【描画】...【段落】

パネルに段落オブジェクトを追加します。画面左の  アイコンも同じ意味を待ちます。このメニューを実行すると、下記のプロパティが開きます。各項目に適切な値を設定し、段落オブジェクトを任意の位置に配置します。

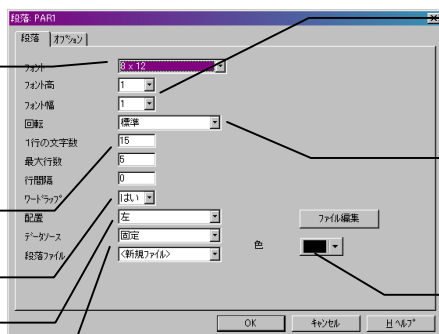
フォントを設定します。ツールタイプフォントを選択すると、右横にツールタイプフォント選択用のリストボックスが表示されますので、そこからお好みのフォントを選択します。

1行の文字数・最大桁数・行間隔を設定します。

ワードラップするかを設定します。

文字の配置方法を設定します。

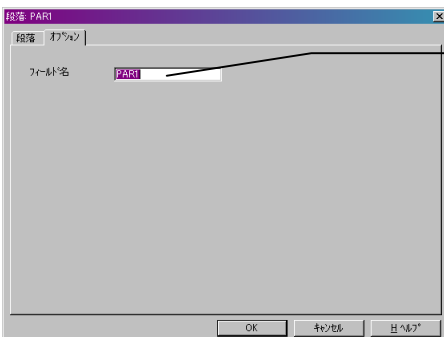
デフォルトは常に固定となり、次の段落ファイルで既に存在するテキストファイルを指定するか、右の「ファイル編集」ボタンで新規にファイルを作成します。ファイル位置は、「オプション」...「ディレクトリ」で設定します。



プリンタフォントの高さ及び幅の倍率を設定します。ツールタイプフォントが設定されている場合は、フォントサイズ（ポイント）とスタイルをそれぞれ設定します。

文字の印字方向（回転）を設定します。

文字色を設定します。



ファイル名を設定します。

【描画】...【バーコード】

ラベルにバーコードオブジェクトを追加します。画面左の  アイコンも同じ意味を待ちます。このメニューを実行すると、下記のプロパティが開きます。各項目に適切な値を設定し、バーコードオブジェクトを任意の位置に配置します。

バーコードタイプを設定します。

バーコードの印字方向（回転）を設定します。

バーコードの倍率（細バー基準）を設定します。値が大きくなるほど大きな安定したバーコードになります。

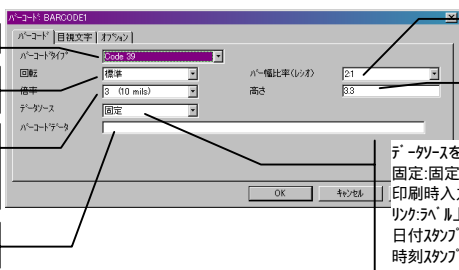
バーコード化したい固定データを入力します。

バー幅比率（レシオ）を設定します。

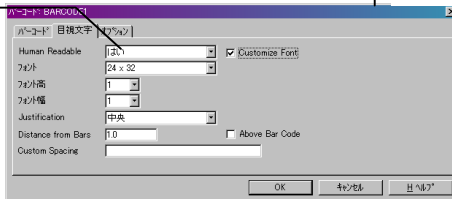
バーコードの高さを設定します。

データを設定します。
固定: 固定データを設定
印刷時入力: 印刷時に値を入力
リンク: ラベル上のオブジェクトや組込関数とリンク
日付スタグ: 無効です
時刻スタグ: 無効です

印刷時入力を設定した場合は、桁数・プロット配置の3項目が新たに追加されます。

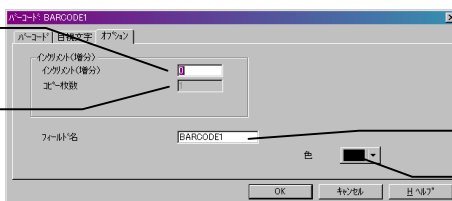


目視文字を印字するかを設定します。「はい」とした場合、「Customise Font」を設定することで任意のフォントを設定することもできます。



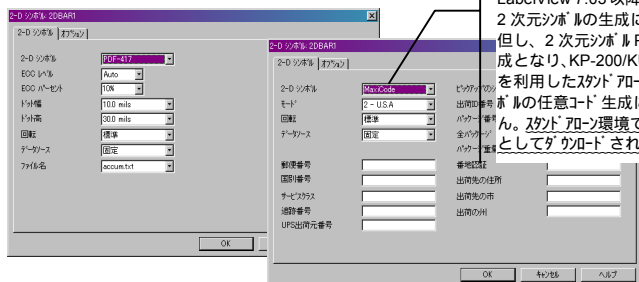
データをインクリメントさせたい場合は、ここに増分値を設定します。

同一増分値で複数のラベルを発行する必要がある場合は、ここに枚数を入力します。



【描画】...【2次元シボル】

ラベルに2次元シボルオブジェクトを追加します。画面左の  アイコンも同じ意味を待ちます。このメニューを実行すると、下記のプロパティが開きます。各項目に適切な値を設定し、2次元シボルオブジェクトを任意の位置に配置します。



LabelView 7.03以降ではQRコードを含む2次元シボルの生成に対応しています。但し、2次元シボルPC上でのグラフィック生成となり、KP-200/KU-007PLUSキーボードを利用したスタンドアロン環境での2次元シボルの任意コード生成には対応していません。スタンドアロン環境では固定グラフィックデータとしてダウンロードされます。

【描画】...【ピクチャ】

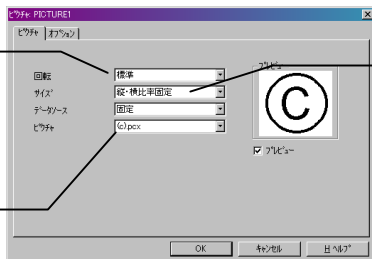
パネルにピクチャオブジェクトを追加します。画面左の  アイコンも同じ意味を待ちます。このメニューを実行すると、下記のプロパティが開きます。各項目に適切な値を設定し、ピクチャオブジェクトを任意の位置に配置します。

ピクチャの印字方向（回転）を設定します。

デューツを設定します。
固定: 固定のピクチャファイルを設定
印刷時入力: 印刷時にファイル名を入力
日付スタンプ: 無効です
時刻スタンプ: 無効です

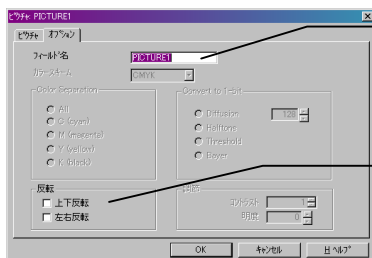
印刷時入力を設定した場合は、プロット項目が新たに追加されます。

ピクチャの伸縮方法を設定します。



フィルタ名を設定します。

上下・左右反転を設定します。



【描画】...【四角形】

パネルに四角形オブジェクトを追加します。画面左の  アイコンも同じ意味を待ちます。このメニューを実行すると、下記のプロパティが開きます。線の太さと線色を設定し、任意の位置に四角形を描画します。

【描画】...【線】

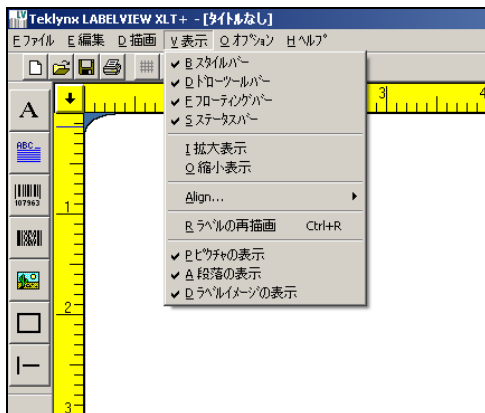
パネルに線オブジェクトを追加します。画面左の  アイコンも同じ意味を待ちます。

【描画】...【シャイプ】

パネルに登録済みの絵やサインなどを追加します。



【表示】



【表示】...【スタイルバー】

スタイルバーの表示/非表示を切替えます。



【表示】...【トローツルバー】

トローツルバーの表示/非表示を切替えます。



【表示】...【フローティングバー】

フローティングバーの表示/非表示を切替えます。



【表示】...【ステータスバー】

ステータスバーの表示/非表示を切替えます。



【表示】...【拡大表示】

【表示】...【縮小表示】

ラベルの拡大/縮小表示を行います。

【表示】...【Align】

選択したオブジェクトを配置します。

【表示】...【ラベルの再描画】

ラベルを再描画します。

【表示】...【ビ° ㄅㄆㄇの表示】

ピクチャの表示/非表示を切替えます。非表示に設定した場合は、ピクチャ枠のみが表示されます。

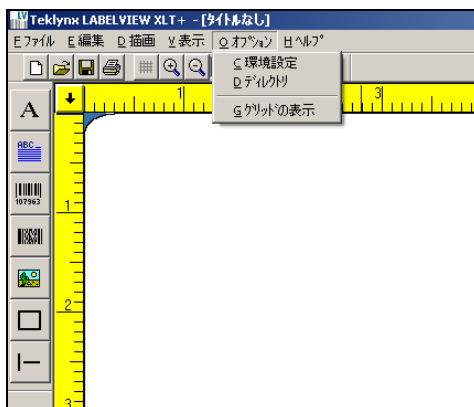
【表示】...【段落の表示】

段落の表示/非表示を切替えます。非表示に設定した場合は、段落枠のみが表示されます。

【表示】...【ラベルイメージの表示】

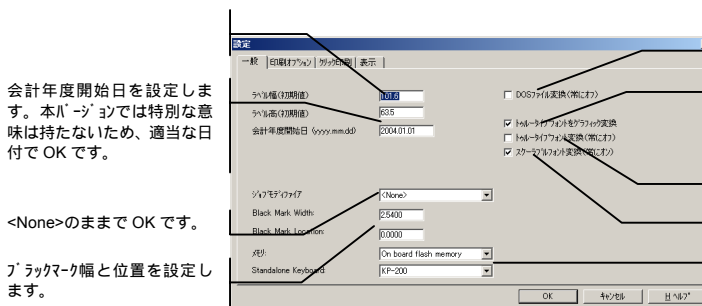
このオ^o シヨンは無効です。

【オブ・ション】



【お°ション】...【環境設定】

LabelView の環境設定を行います。



常に ω とします。

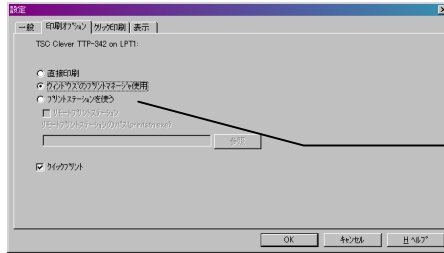
チェックを丸にするとトル・タイプ
フォントをグラフィック変換し、固定
グラフィックデータとして扱いし
ます。

常に ω とします。

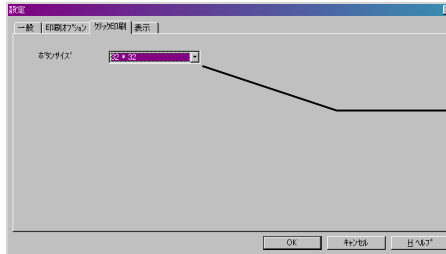
常にわとします。

「ハ・ル・ウ・ロ・ト」の対象となる
「ホ・ト」型式と「メ・リ・イ」を設
定します。

通常は、
On board Flash memory
KP-200
を選択します。



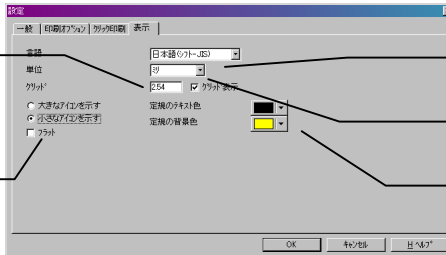
「プリント」の「プリントマネージャ使用」を選択します。その他は、左記の通りとしてください。



初期状態のままで OK です。

グリッドの間隔を設定します。また、グリッドを表示する場合は、右のチェックをわにします。

アイコンの大きさ及び立体/フラット表示を設定します。



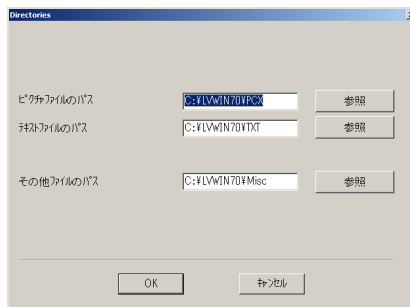
日本語(シフト-JIS)となっていることを確認してください。

長さの単位を設定します。

定規(ル-ラ)の色を設定します。

【オプション】...【ディレクトリ】

LabelView で扱う各種ファイルのディレクトリ位置を設定します。



【オプション】...【グリッドの表示】

グリッドの表示/非表示を切替えます。

【ヘルプ】

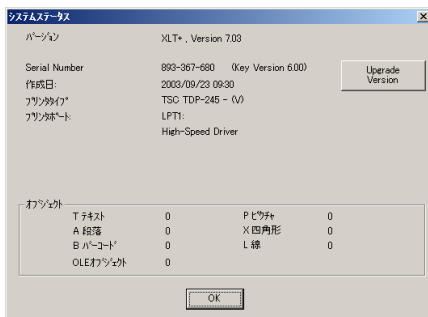


【ヘルプ】...【ヘルプ】

ヘルプ ファイル(英語)を開きます。

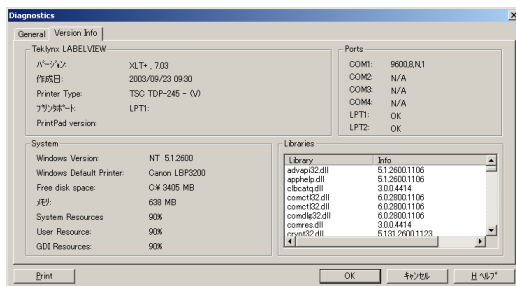
【ヘルプ】...【システムステータス】

システムステータスを表示します。



【ヘルプ】...【Diagnostics】

診断結果を表示します。



【ヘルプ】...【バージョン情報】

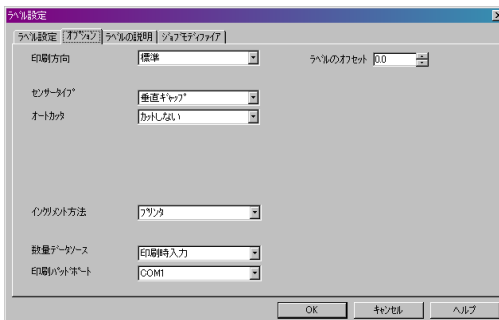
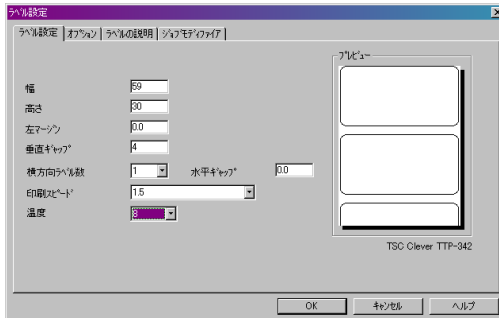
バージョン情報を表示します。



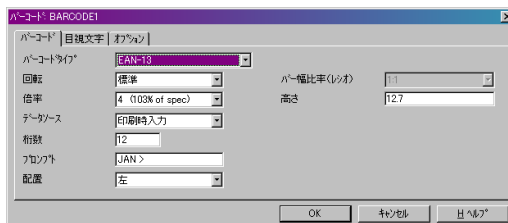
4.2.4 ラベルを作ってみよう

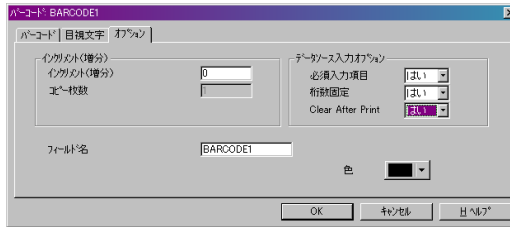
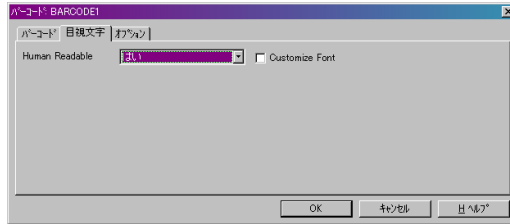
【パソコンでラベルを印刷】

JANコード (EANコード) と会社名が入った簡単なラベルを作ってみましょう。
最初に「編集」...「ラベル設定」でラベルサイズなどを設定します。ここでは、幅 59mm
× 高 30mm のラベルを使うことにします。

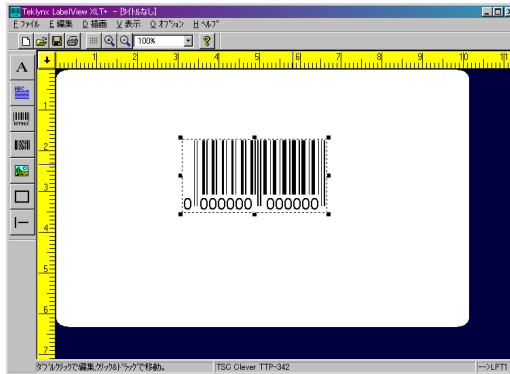


続いて、「描画」...「バーコード」を実行し、プロパティを下記のように設定します。

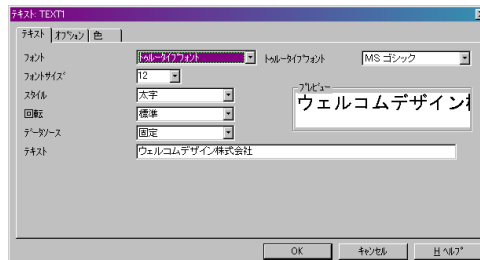




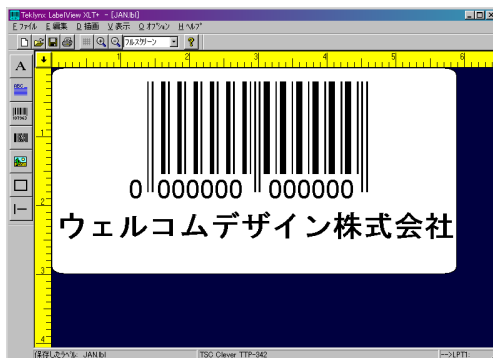
プロパティの設定が終われば、バーコードオブジェクトを下記のように配置します。



最後に会社名を追加してみましょう。「描画」...「テキスト」を実行し、プロパティを下記のように設定します。会社名はしっかりした字の方が良いので、WINDOWSのMSゴシックフォントを太字で使いましょう。



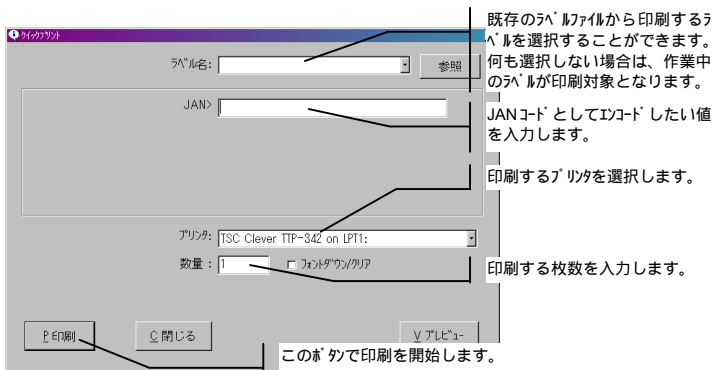
会社名を配置するとラベルは下記ようになります。



これでラベルのデザインは完了です。「ファイル」...「名前を付けて保存」を実行し、ラベルを保存してください。

では、印刷してみましょう。

「ファイル」...「印刷」を実行すると、クイックプリントが起動します。必要項目を入力して、「印刷ボタン」をクリックすればラベルが印刷されます。



思った通りにラベルが印刷できれば成功です。

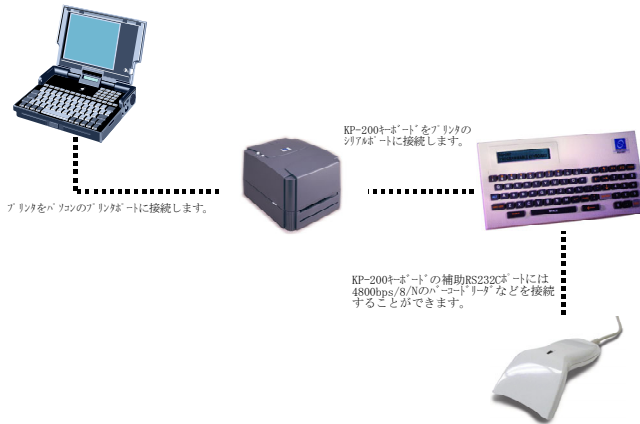
次は会社のイメージアップにつながるような、オリジナルラベルをデザインしてみましょう。

注意

LabelView は CSV データの取込やデータリンク機能は装備していません。

【スタンドアロンでラベルを印刷】

TTP シリーズは別売の KP-200 キーボードを接続することで、スタンドアロン型バーコードプリンタとして利用できます。ここでは、その使い方を簡単に説明します。



先に作った JAN コードラベル(jan.lbl という名前で作成)をスタンドアロンで印刷することにししょう。

プリンタが接続されていることを確認してから「ファイル」...「Download File to Printer」を実行します。

ダウンロードするファイルの規則

MS-DOS と同様に 8.3 形式でなければいけません。

英数字で構成されていなければいけません。 - や + 等の記号は使えません。

ダウンロードしたファイルを消去する

ボーズとフィードボタンを押しながら電源を切るとプリンタが初期化され、フラッシュ ROM 上の全ファイルが消去されます。

KILL コマンドをプリンタに送信します。例えば、JAN というファイルを消去したい場合は、

```
> COPY CON LPT1
KILL "JAN"
MOVE
```

というコマンドを発行し、全ファイルを消去したい場合は、

```
> COPY CON LPT1
KILL ""
MOVE
```

というコマンドを発行します。

上記の COPY コマンドはコソール入力を LPT1 ポートに出力します。

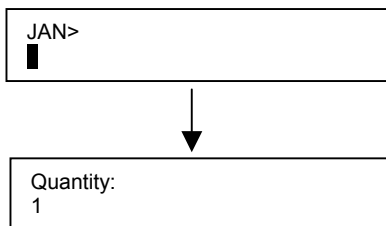
jan.lbl を選択して、「追加」ボタンをクリックし、右側ボックスに jan.lbl が表示されるのを確認します。続いて、「ダウンロード」ボタンをクリックすれば、jan.lbl が TTP シリーズ専用プリンタ言語 TSPL に変換され、スタンドアロン用プログラムとしてプリンタのフラッシュ ROM に書き込まれます。

しばらく TTP シリーズの電源 LED が緑色にフラッシュします。これは、プリンタがプログラムをフラッシュ ROM に書き込み中であることを意味します。LED が通常の状態に戻るまで待ってください。

これで準備完了です。

KP-200 キーボードの「FORM」キーを押してください。プリンタのメモリ内にロードされているラベルファイルがディスプレイに表示されます。「↑」「↓」キーでラベルファイル jan を選択し、「ENTER」キーを押します。

ラベルファイル jan が実行されると、ディスプレイの一行目に「JAN>」というプロンプトが表示されます。JAN コードデータをキーボードから入力し、「ENTER」キーで確定します。続いて、「Quantity:」というプロンプトが表示されますので、印字したい枚数(デフォルトは 1 枚)を入力します。最後に「ENTER」キーを押すとラベル印刷を開始します。



後は、この繰り返しです。

「EXIT」キーもう一度押すと、プリンタがリセットされ、再度ラベルファイルの選択が可能になります。

注意

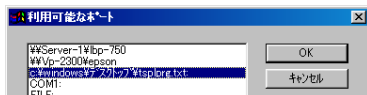
「Download File to Printer」を使用した場合、「桁数固定」や「Clear After Print」等の制限は無効になります。また、印刷枚数 (Quantity)の入力が必須です。但し、生成された TSPL コードをユーザー側で編集することで、より使いやすい印刷プログラムに仕上げることも可能です。

参考

LabelView によって生成される TSPL コードは、WIN.INI に下記の 1 行を付け加えることで参照可能です。(WINDOWS98 系)

```

[Ports]
c:\windows\fonts\tsp1prg.txt:=      ← この 1 行を追加
LPT1:=
LPT2:=
  
```



プリンタの接続先を上記のファイル名に変更して、「Download File to Printer」を実行すれば、WINDOWS のデスクトップ上に tsp1prg.txt というテキストファイルが生成されます。そのファイルを編集することで、よりフレキシブルで効率的なラベル印刷プログラムを作成することが可能になります。

補足 A 仕様

仕 様	
印字方式	ダイレクトサーマル(感熱式) 又は サーマルトランスファー(熱転写式)
印字速度	TTP-243 1.5, 2.0, 3.0 インチ/秒 選択可能 TTP-342 1.5, 2.0 インチ/秒 選択可能
解像度	TTP-243 203dpi (8 ドット/mm) TTP-342 300dpi (12 ドット/mm)
フォントスタイル	英数字フォント 5 種類 高 0.059" (1.5mm) ~ 0.23" (6.0mm) 水平・垂直方向に 8 倍迄拡大可能
バーコード	コード 39, コード 93, UCC128, コード 128(サブセット A,B,C), コードバー(NW7), インターリーブド 25, JAN/EAN8, JAN/EAN13, UPC-A, UPC-E, EAN/UPC ほか 2/5, Postnet
二次元バーコード	マトリックス, PDF-417, データマトリックス
グラフィックス	PCX フォーマットファイル (モノクロ/白)
インディケータ LED	電源, カラライ, エラー * LED の機能は「ロギング」モードにより再定義することが可能です。
ボタン	電源, ホール, フィード * ボタンの機能は「ロギング」モードにより再定義することが可能です。
インディケータ	ブザー, LED
インターフェイス	セントロニクスインターフェイス RS232C インターフェイス (太字・下線はデフォルト値) ボーレート 2,400, 4800, 9600 , 19200bps データビット 7, 8 ビット パリティ 無し , 偶数, 奇数 ストップビット 1 , 2ビット 受信バッファ 60KB ピン配列 3. RxD 5. GND 9. +5V(KP-200 電源供給専用)
キャラクタセット	ANSI ASCII キャラクタセット
入力電圧	DC24V 専用 AC アダプタ(AC110-240V, 50-60Hz 入力)により供給
保護回路	2A max.
動作温度	5~+40 °C
保管温度	-10 °C ~ +60 °C
湿度	10 ~ 95% RH 結露無きこと
その他、周囲環境	通気性の良い場所
外形寸法	15.6cm(H) × 23.2cm(W) × 28.8cm(D) 外付ラベル供給時 使用時、45.6cm(D)
重量	TTP-243 2.7kg, 2.9kg(外付ラベル供給時 使用時) TTP-342 2.4kg, 2.6kg(外付ラベル供給時 使用時)
EMC 規格	FCC, CE, UL, CUL, TÜV-GS, CNS 準拠

補足 B おのり

TTP シリーズには幾つかののりが用意されています。用途に合わせて、これらののりを合わせてご使用ください。

- 日本語フォントリッジ
- ロータリッター
- KP-200 キーボード

補足 C 消耗品

C.1 パール

TTP シリーズは、感熱式パールと熱転写式パールの両方に対応しています。
下記に TTP シリーズが対応可能なメディアの仕様を示します。

	パール	タテ
幅	最小 1" (25.4mm)	最小 1" (25.4mm)
	最大 4.49" (114mm)	最大 4.49" (114mm)
重さ	240g/m ²	
長さ(リール)	0.4"(10mm)~90"(2,286mm)	0.4"(10mm)~90"(2,286mm)
高さ	通常 12mm min. ビル機能 35mm min. カッター機能 15mm min.	
厚み	0.002"(0.05mm)~0.008"(0.20mm)	
ロール直径 (1" リール)	内付	最大 4.3"(110mm)
	外付	最大 8.4"(214mm)
ハブ径	Ø 25.7 ± 0.3mm	

(*) センターホール付タテを印刷する際は、TTP シリーズのキヤップセンターをセンター検知タイプに変更する必要があります。詳しくは弊社担当迄、ご相談ください。

C.2 リボン

熱転写式プリンタとして TTP シリーズをお使いの際は、専用の熱転写リボンが必要となります。以下のリボンからパール材質・パール幅に合った(パール幅より大きいもの)ものをご利用ください。

- R-WX060 60mm 幅ワックスリボン, 300m 巻, トランスパレント
- R-WX110 110mm 幅ワックスリボン, 300m 巻, トランスパレント
- R-WR060 60mm 幅ワックスリボン, 300m 巻, トランスパレント
- R-WR110 110mm 幅ワックスリボン, 300m 巻, トランスパレント
- R-RS060 60mm 幅リボン, 300m 巻, トランスパレント
- R-RS110 110mm 幅リボン, 300m 巻, トランスパレント

修理依頼書

修理を依頼される場合は、下記の用紙に必要事項を記入し、修理品と一緒に販売店へご返送ください。尚、修理は全てセトパック方式で行います。現地での出張修理などは一切行いません。

修理依頼書			
依頼日			
会社名			
部署名			
担当者			
メールアドレス			
電話番号		FAX番号	
ご住所			
販売店名		ご購入日	
製品型番 (名称)			
製造番号 (S/N)			
付属品	ケーブル[]・ACアダプタ		
トラブルの症状を詳しく記入してください。			
症状発生頻度 : ☐ 常に起こる ☐ 1日に[]回程度 インターフェイス : ☐ RS232C ☐ セントリクス ☐ イーサネット ☐ その他 [] 接続ホスト : メーカー [] 型番 [] OS [] その他、使用状況を記入ください。			
返送先			
見積・請求先			
スポットサービス時は、修理見積後に修理をキャンセルされた場合に限り、見積料として弊社所定の料金を申し受けます。ご了承いただける場合は、押印の上、修理品に添付してご返送ください。			ご確認印

拡大コピーしてお使いください